

アクセシビリティを高める公共トイレの構築 - インタビュー調査によるトイレ利用者等の声をもとに -

京都産業大学 藤野ゼミ Aチーム



研究の目的・背景

01



本研究の目的

- ✓ 公共トイレの二元的なあり方を問い直す
- ✓ トイレ利用者等多方面の人達へのインタビュー調査を実施し、様々な声をもとに、誰もが等しく利用できる公共トイレとは何かを検討



本研究における“公共トイレ”の定義

小林（2017）

- 不特定多数の人が公共の場で自由に利用できる共用のトイレ
- それらは路上や公園等に設置される公衆トイレや、それ以外に公共施設、駅、交通施設、商業施設等に付属して設置され、設置者は公共団体のみではなく民間も含まれる

持続可能な開発目標（SDGs）



SDGs
Sustainable Development Goals

- 5.6… 国際人口開発会議（ICPD）の行動計画および北京行動綱領、ならびにこれらの検討会議の成果文書に従い、**性と生殖に関する健康および権利への普遍的アクセス**を確保する
- 6.2… 2030年までに、すべての人々の、適切かつ平等な下水施設・衛生施設へのアクセスを達成し、野外での排泄をなくす。**女性および女子、ならびに脆弱な立場にある人々のニーズに特に注意を向ける**

01

研究の目的・背景

海外・日本の例

スウェーデンでは
オールジェンダートイレが普及



画像出典
LIXIL HP (https://www.biz-lixil.com/column/urban_development/pt_report008/)
東京新聞web HP
(<https://www.tokyo-np.co.jp/article/267703>)

歌舞伎町では今年4月に
オールジェンダートイレが**失敗**
その期間わずか4か月



近代以降の性別二元制の影響



イヴ・セジウィック… 性別二元制こそが、女性を性的対象とみる女性蔑視そして同性愛嫌悪など**多様性排除の要因**になったと指摘

性別二元制… 性を「男」と「女」のどちらかに分類する社会規範

02

研究方法



フィールド調査

北大路イオン、地下鉄北大路駅、北文化会館で実施



インタビュー調査

フォーカスグループ・インタビュー

一般利用者

IV. 大学生

	日付	年代	人数	学年
女子	2023/9/21	20代	5人	3年生
男子	2023/9/28	20代	5人	3・4年生
混合	2023/9/28	20代	18人	2年生

設置関係者

V. 京都市役所職員

	日付	年代	性別	属性
H氏	2023/9/7		男性	京都市役所職員
I氏	同上		女性	同上

デプス・インタビュー(半構造化)

異性間ケア従事者・トランスジェンダー

I. 乳幼児（異性）のいる育児従事者

	日付	年齢	性別	現在の職業	子どもの属性
A氏	2023/7/13	41歳	男性	大学教授	女5歳・女3歳
B氏	2023/7/17	46歳	男性	大学教授	男4歳・女2歳
C氏	2023/7/27	37歳	男性	大学職員	女6歳・女4歳・妊娠中
D氏	同上	34歳	男性	大学職員	女6歳・女5歳・7ヵ月女
E氏	2023/7/30	34歳	男性	小学校教諭	女2歳

II. トランスジェンダー

III. 介護従事者

	日付	年齢	性別
F氏	2023/9/24	42歳	男性
G氏	2023/9/29	56歳	女性

デプス・インタビュー(半構造化)

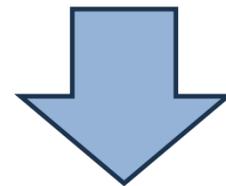
03

結果

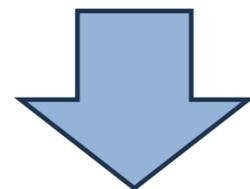


フィールド調査

多機能トイレへの機能集中



専有面積が広い & 大量設置が難しい

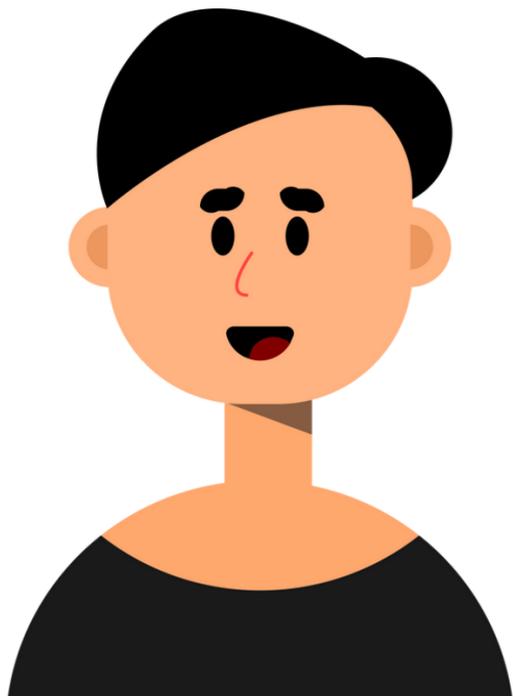


多機能トイレの設置数が少ない



【デプス・インタビュー】 乳幼児（異性）のいる男性5名

- ・ 娘が成長するにつれて男子トイレと一緒に入るのに**抵抗がある**
- ・ 「多機能トイレ」が多くあればよいが、そうではないため、困っている



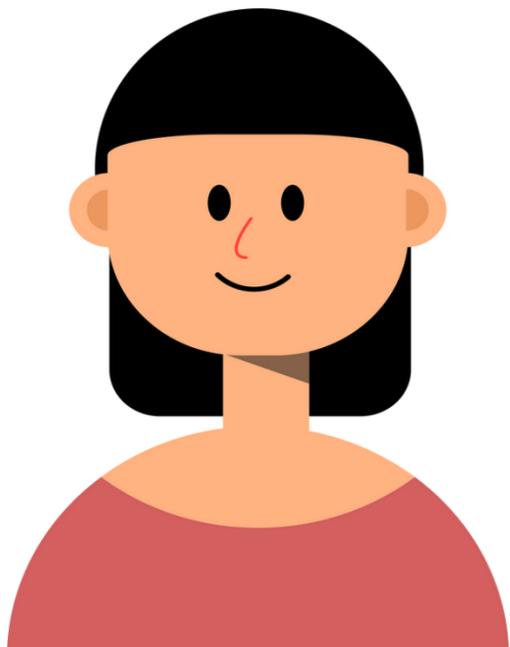
【デプス・インタビュー】 トランスジェンダー

- ・ 多目的トイレや共用トイレを使うようになった
- ・ 多機能トイレは身障者対象と言われているため申し訳ない気持ちになる
- ・ 性的マイノリティのレインボーマークのあるトイレに入る時は周囲の視線が気になる



【デプス・インタビュー】 介護従事者

- ・ 異性介助の場合、**多機能トイレしか使えない**
- ・ 複数人で出かけた場合、多機能トイレを占領してしまうことになる
- ・ 共用トイレが広めで機能を備えていれば使用できると思う



【フォーカスグループ】 大学生

- ・ トランスジェンダーのためのトイレとの意識が強い
- ・ 「オールジェンダートイレ」という名称を変更すれば入りやすいといった意見も
- ・ 女性の抵抗感は強い(性被害・生理の問題)
- ・ 同一空間内の使用を嫌悪する心理的拒否感が強く見られた
- ・ 男性は女性ほどの抵抗感はなく、混み具合などの点を指摘、共用しかなければ使用するなどの意見がみられた



【デプス・インタビュー】 京都市役所職員

- ・ 「多機能トイレ」に名称を統一、多様なピクトグラムの採用、トイレのドアへの利用対象者の明記をしてきた
- ・ 今後京都市としてオールジェンダートイレの整備を行う予定はない
- ・ 民間が運営する商業施設等において、オールジェンダートイレの整備を求めたい



考察



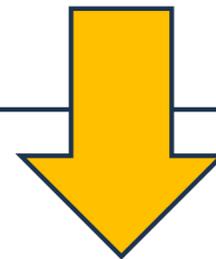
04

多数の男女別トイレと、少数の多機能トイレが併設されている現状

男女別トイレ・多機能トイレ

補いきれない需要や機能
心理的な抑圧
社会参加の妨げ

性別二元制の定着により
排除されてきた多様性を
一部修正したに過ぎない



解決策として「オールジェンダートイレ」が有効なのではないか??

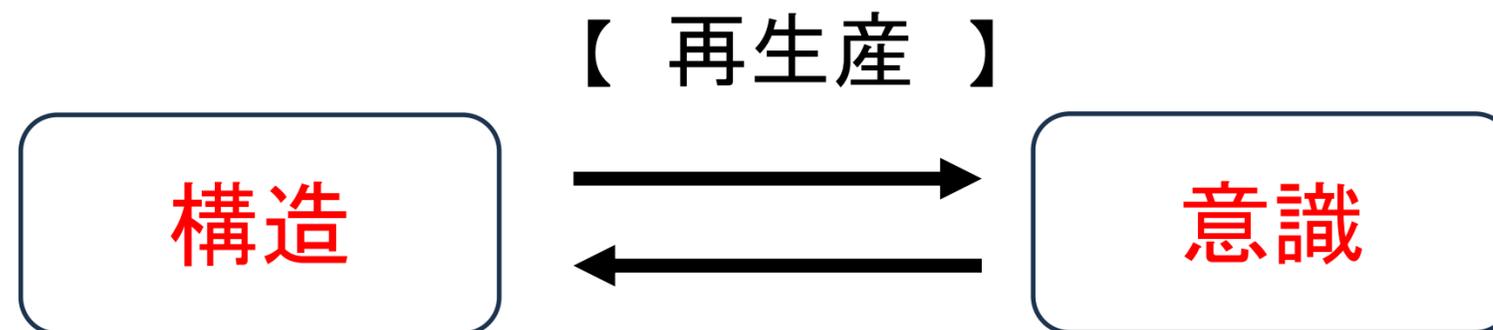
オールジェンダートイレへの評価

- ・女性から性被害のリスクや衛生面での不安、**心理的抵抗など**
否定的な意見が多い
- ・自身がケア（育児・介助・介護等）の担い手になった場合を想定したり、
名称に工夫があれば、オールジェンダートイレに対する抵抗感が薄れる



オールジェンダートイレ…導入の困難とは？

- 女性の性犯罪の原因には、女性を性的対象とした性別二元制とその権力構造がある
- **二元制の解体こそが根本的解決**だが、逆説的にもそこに安住したいとの強い意識が示される
- 強固な構造と意識の関係性 → **急激な構造変化に人々の意識は、追いついていかない**

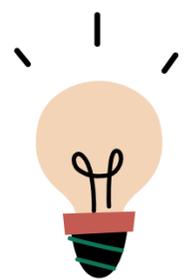


京都市

- ・ 現在、さらなる進展がない状況
ex.) 多機能トイレからバリアフリートイレという名称変更
- ・ ジェンダーや人権の視点から **公的機関** の改革が課題



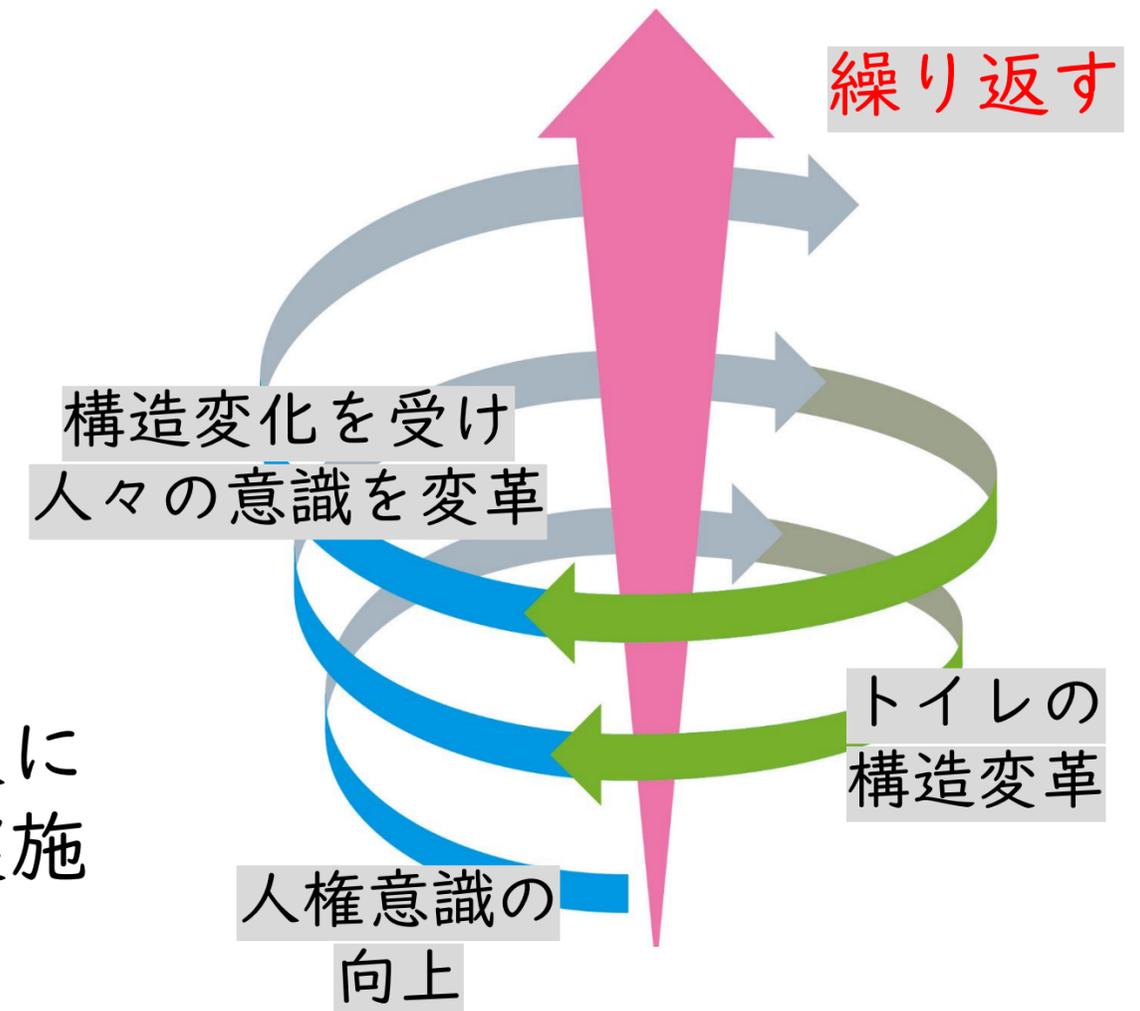
政策提言



05

人権意識の向上とトイレの構造変革のスパイラル化

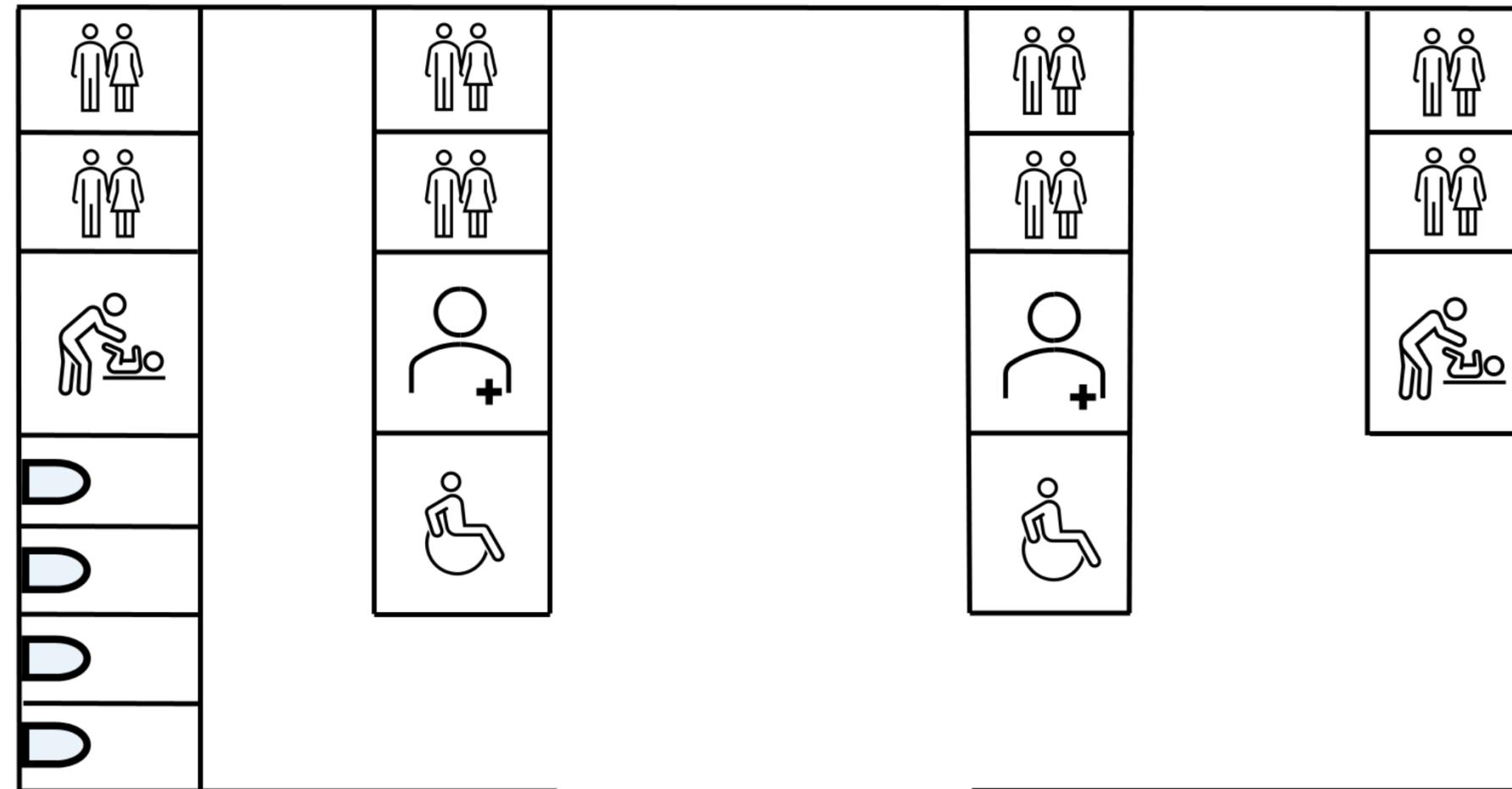
- 多様性に応じた構造をもちつつも、**誰もが利用できる**共用トイレを一般に普及していくことは不可欠
- **一気に共用化を進めることは困難**
- 人々の意識の段階に応じたトイレの構造を提示しつつ、共に人権意識を高めながら、共用トイレの最終的な普及につなげる「**プロジェクト（パイロットスタディ）**」を実施



京都市から始めるトイレプロジェクト —構造と意識をスパイラルに変革—

- 導入場所：京都市内の多様な人達が利用する公共団体の施設
1か所をパイロットケースとして選択（市役所など）
- 目的：パイロットケースから得た情報をもとに、多くの他機関に波及させる。
- 計画：比較可能な**並行運用方式**
次に示すStep123を同時運用し、最終的にすべて3へ名称変更。
今後、新たな名称考案を予定
- 期間：123の運用状況を比較し、意見を聞きつつ移行時期を決定
またStep3も改善していく
- 費用：トイレメーカー企業と連携しコストを抑える。
広報費用が必要。

STEP.3 最終目標 〈完全共用トイレ〉



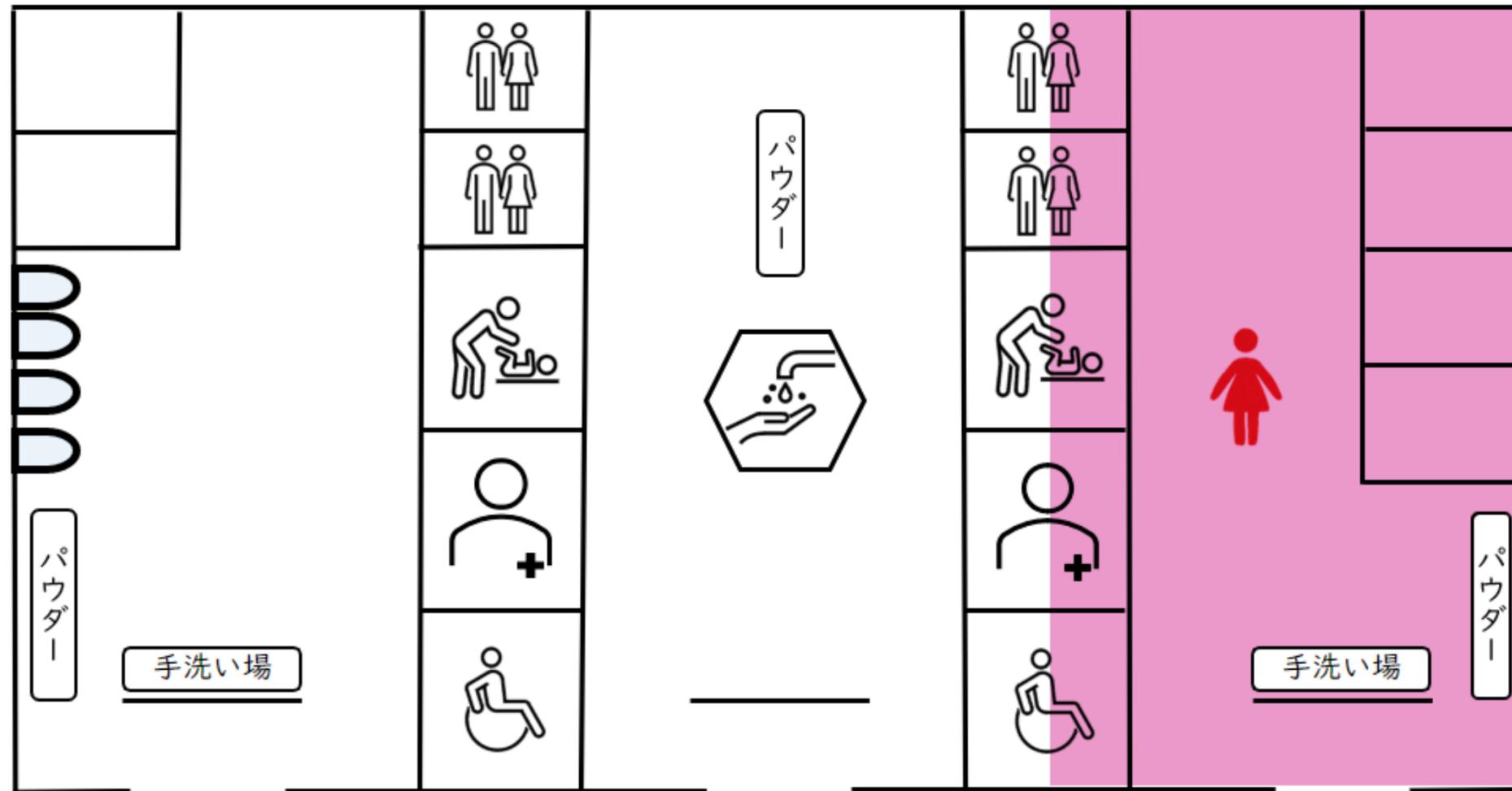
3F STEP1

2F STEP2

1F STEP3

- ・ 入口や個室など全ての機能が共用である**完全共用トイレ**である
- ・ **SDGs実現などを旨としたみんなのトイレ**と明記
- ・ **1階に設置**（他の階にはSTEP 2・1のトイレを設置）

STEP. 2



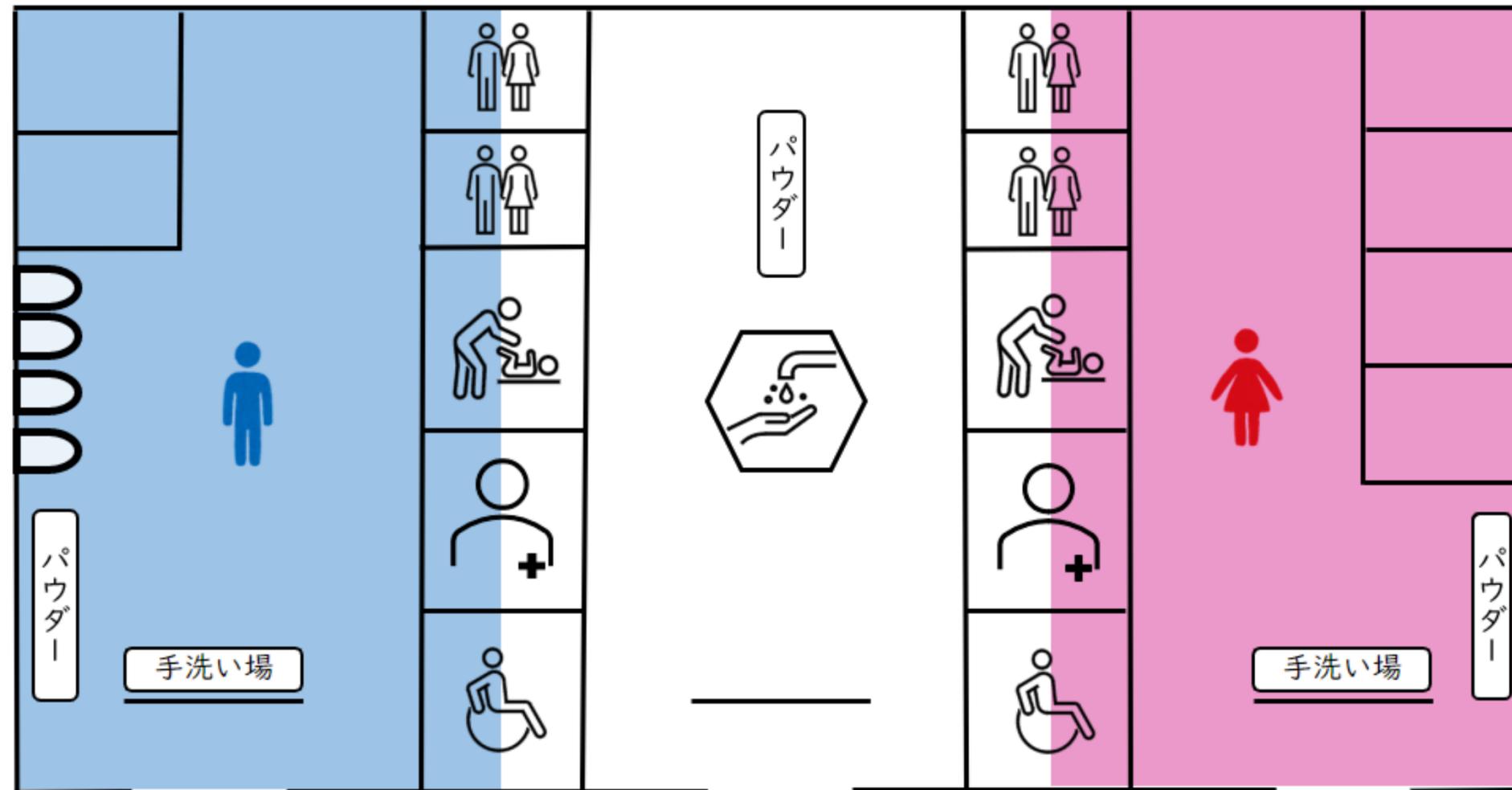
3F STEP1

2F STEP2

1F STEP3

- ・ 「共用トイレ＋女性用トイレ」とする
- ・ 女性の保護を目的とする

STEP.1



- ・特徴として自由に入口を選択でき、多機能トイレの機能を複数の個室に分散
- ・中央の機能分散トイレに男女別トイレからも入ることが可能

京都市から始めるトイレプロジェクト —構造と意識をスパイラルに変革—

意識改革

(例) 受け入れが遅い

プロジェクト
開始 (行動情報・意見収集)

「共用」への
意識醸成

STEP1→2
STEP2→3

全てSTEP 3
(人々の意見も反映)

(例) 受け入れが早い

構造改革

STEP1→2



二元構造

他機関

- ・他の公共施設
- ・民間施設

共用トイレ
(STEP 3) を
スタンダードに

THANK YOU!

ありがとうございました